みやこ町歴史民俗博物館

博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.92

平成25年12月1日
みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

無雙真古流 記念事業

京都東山文化スタディ講座 受講生募集

文化のみやこプロジェクト

京都 慈照寺(銀閣寺)との交流などを通じて みやこ の文化再発見!

当館では、来る平成26年1月から「京都東山文化スタディ講座」を開講いたします。これは、みやこ町ゆかりの華道流派で、歴史的に慈照寺(銀閣寺)との縁が深い「無双真古流」を記念して実施するもので、当館学芸員や外部講師による講座・講演、また慈照寺研修道場との交流講座などを通じて、「みやこの文化」について再発見するものです。第1期講座の開講期間は、平成26年1月～12月を予定しています。予定定員は40名です。お早めにお申し込みください。

【講座内容】季節ごとに講座を開催します(計4講座)。原則として4講座全て受講していただけることを前提に受講生を募集致します。

春の講座 **平成26年1月14日(火)～15日(水) 1泊2日**

「京都東山文化スタディツアー」

京都慈照寺(銀閣寺)をたずね、同寺研修道場花方教授・珠寶先生による献花・講演会を観覧・受講いたします。参加費は下記のとおりで(現地での研修は主催者が負担)、慈照寺での研修は1日目午後に実施し、2日目の研修内容については受講生の皆さんと事前研修(本年12月下旬を予定)で話し合います。

※講師謝金等の研修費は主催者負担／※スタディツアーのみの参加は受付けていません

◎旅行代金:お一人様 36,970円

交通費・宿泊費・保険料・食事4食代込み(自由行動中の1食分のみ別途に各自負担)。2名1組で参加しツインに宿泊した場合は一名につき500円引き。

旅行代金は各自で旅行会社にお支払いいただきます。旅行業務の企画・実施(申込み・問合わせ共に)は町が委託した次の旅行会社です。手続き等の詳細は事前研修で説明いたします。

〈旅行企画・実施〉㈱ナイストラベル(行橋市中央1-2-7 ☎26-9871) 福岡県知事旅行業登録3-652

夏の講座 **平成26年5月3日 「無双真古流」学習講演会** (場所:当館、講師:当館学芸員、受講料:無料)

※残り2回の講座は慈照寺から講師の先生をお招きして交流講座を実施する予定です

【講座のお問合わせ・お申込み】博物館までお電話にて。電話 33-4666 先着順に受付け、定員40名で締切り。

年末休館のお知らせ

館内整理および燻蒸作業実施のため、12月23日(月)から27日(金)まで博物館は休館いたします。この間、博物館および文化財業務に関することは下記にお問合わせください。なお、新年は1月7日(火)から開館いたします。

教育委員会生涯学習課
TEL 33-3114

10月6日(日)、みやこ町中央公民館にて歴史文化カレッジ特別講演会を開催。講師は九州大学名誉教授・西谷正先生で、「古代の福岡ー弥生～奈良時代の京築ー」のテーマでお話しいただきました。参加者約200名。講演会終了後「わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール」「歴史たんけん作文コンクール」の表彰式を実施しました

みやこの歴史発見伝 69

「神楽城」と城下集落「城井」

～城井宇都宮氏「原点」の城・中世「みやこ」の面影を残す街～

官兵衛の宿敵・城井宇都宮氏

来年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の放映に合わせ、町の内外では「ゆかりの地や事物」の発掘・再発見がちょっとしたブームです。見慣れた場所や行事がゆかりの事績とわかり「へぇー」「そうなのかぁ」と驚く人も多く、格好のふるさと再発見の機会になっています。

今回はブームにあやかり、官兵衛を苦しめた「最大の宿敵！」として注目を集めているふるさとの武将・城井宇都宮氏ゆかりの遺跡をご紹介しましょう。

城井宇都宮氏とは

城井宇都宮氏は、町内では「城井の殿様」とも呼ばれて、永らくこの地を治めた名将として記憶されています。その発祥は遠く平安時代に下野（栃木県）宇都宮を本拠とする坂東（関東）武者に朔ります。源平合戦後の文治～建久年間ころ、将軍源頼朝の命によって当主信房が九州へ下り、本拠を町内木井馬場（当時は城井郷）において以降、「鎮西（九州）宇都宮氏」として新スタートを切りました。

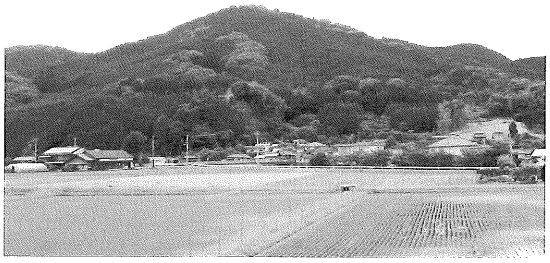
その後宇都宮氏は栄達を重ね一時は筑後や豊前の守護を務めて九州屈指の有力武士となりましたが、応安七年（一三七五）南朝方として蜂起に失敗してのちはその威勢に陰りが生じ、一郡程度を支配する中規模国人に縮小しました。しかし地域への密着度は高まり、この頃には本拠地名・城井を主な名乗りに採用（ゆえに城井氏とも呼ばれる）して「地生えの武士」としての生き方を鮮明にしてゆきます。

そして迎えた天正十五年（一五八七）、一旦は秀吉配下となることで本領安堵されるはずが伊予（愛媛県）への転封に決まり、四百年根付いた土地を離れ難い十八代当主鎮房は抗議の一揆を起します。これが天下人秀吉の逆鱗に触れ、鎮圧に向かった官兵衛との対決になります。

鎮房は地の利を生かした戦いで鎮圧軍を三度撃破、尋常の手段では破り難いと見た官兵衛は和睦を偽装し、鎮房を中津城へ誘き出し宴席上で殺害、すぐさま城井谷（築上町・当時の本拠）を攻めて一族を滅ぼしたのです。

今も残るゆかりの遺跡

官兵衛に滅ぼされた宇都宮氏ですが、四百年の治世を重ねる中で多くの遺跡やゆかりの地を残しました。ここではその代表となる本拠地・神楽城とその城下集落をご紹介します。



▲神楽城跡遠望（山麓の市屋敷地区から）

●神楽城

木井馬場地区の背後にそびえる里山・神楽山（標高二七二m）。宇都宮氏はこの山頂部に要害を構え、神楽城と称しました（ほかにも城井城・桶ヶ城・高畑城等の別称がある）。

山頂一帯には陣地となる曲輪や攻め手の動きを封じる堀（堀切や竪堀。水のない空堀）・土塁・切岸等、土の要塞としての痕跡がよく残っています。実戦の舞台にもなっていて、南北朝から室町期にかけ、少なくとも三度の戦を経験しています。とりわけ応安の城井合戦では九ヶ月もの籠城戦を展開し、堅固な城であったことが知られます。

官兵衛の頃には宇都宮氏が本拠を城井谷に移していたため支城や隠居城といった二次拠点の扱いだったようですが、最後まで戦線に加えられていたのはその輝かしい戦歴とともに、宇都宮氏にとって「原点」といえる城だけに冒し難い権威と見なされたのかもしれません。

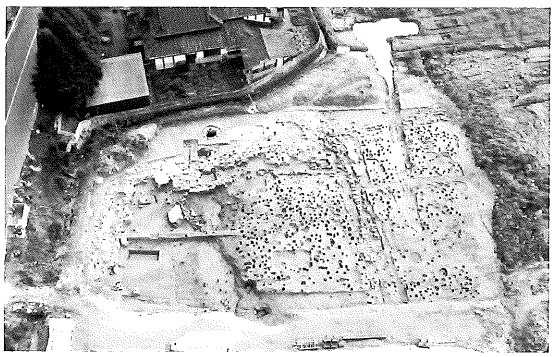
●城下集落「城井」

軍事拠点としての城とは別に、神楽城下には平時の領主の住まいとなる居館のほか家臣団や彼らを支える庶人の住居が集まり、小規模ながら後世の城下町に相当する集落が営まれたようです。

特に初代信房は武家の都・鎌倉に倣った街づくりをし、氏神宇都宮大明神を中核に鎌倉五山に当たる城井七ヶ寺という寺院群も造り、山間の「ミニ鎌倉」を装った時期もあったようです。平成三年（一九九一）にはその一部が発掘され、館の一部と見られる屋敷跡と調度品とみられる大量の青磁片が出土しました。

当時は舶来品だった青磁の碗や香炉・合子といった高級調度をふんだんに使ったセレブな暮らしは、九州四人衆として絶頂期にあった鎌倉後期の遺物と見られ、戦国期の質実な暮らしぶりとは大いに様相を異にします。江戸期には「城井府（＝都会）」の名で城下の繁栄を都に準えた回顧もされたようですが、それにふさわしい栄華の日々もあったようです。

（木村達美）



▲城下・中屋敷遺跡の発掘状況。石組や庭園跡？出土

▲中屋敷遺跡出土の青磁の器類。写真はごく一部